

令和3年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身の回りの量感を意識して指導した結果、長い長さや目に見えない重さ等の量についての感覚が育ってきた。
- ・図に表すことを重点に置き、自分の考えを書く場面を多く設定することで、考えを記述することへの苦手意識は減ってきている。

(2) 課題

- ・昨年度はコロナ禍にあったため、例年より授業時間の確保が難しかった。そのため、基礎基本の反復学習の時間が少なくなり、計算力などの定着に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率は約8割5分である。 ・全観点で目標値を大きく上回った。 		
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率は約7割である。 ・全観点で目標値を上回った。 	(第4学年時) <ul style="list-style-type: none"> ・達成率は約8割である。 ・全観点で目標値を上回った。 	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率は約7割である。 ・全観点で目標値を上回った。 	(第5学年時) <ul style="list-style-type: none"> ・達成率は約7割である。 ・全観点で目標値を大きく上回った。 	(第4学年時) <ul style="list-style-type: none"> ・達成率は約8割である。 ・全観点で目標値を大きく上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね知識の習得はできている。 ・長さや重さや小数のしくみについての設問で正答率が他に比べ低いところがあり、習熟不足と見受けられる。 	かけ算の問題で条件を満たす場合の考えの記述や、棒グラフの有用性や特徴を説明することについて、正答率が上がってきている。	授業中の学習課題に取り組む姿勢はどのクラスも概ね意欲的であり、自力解決に取り組もうとしている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・概ねの知識は理解できている。 ・倍数についての理解や小数のしくみや計算、分数に関する設問で正答率が低く、習熟不足と考えられる。 	立式をし、言葉を用いて、考えを表現することに課題はあるが、正答率が上がってきている。	授業中の学習課題に取り組む姿勢は習熟度コースにより差はあるが、概ね意欲的であり、自力解決に取り組もうとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> リボンテープといった具体物を活用して長さを見えるようにすることで量感を育む。 2位数の加法計算では、繰り上がりの仕方を確実に身に付けさせる。類似問題に繰り返し取り組ませる。 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算、大きい数の学習では、既習事項である数のまとまりを関連付けて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題では、テープ図や図を使って式をとらえさせる。問題作りを通して立式の力を高める。 式から場面を想像させる活動を取り入れていく。 図やブロックで表したり、言葉でまとめたりして自分の考えを説明する基礎を培う。 図に書き込みをすることで、考え方を書き残し、振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードを用いたゲームを積極的に取り入れ、楽しんで学習に取り組めるように工夫する。 デジタル教材を活用し、視覚から興味をもたせて取り組ませる。 長さや水のかさを、身近な道具を使って、自ら測ること等を通して、量の概念を形成できるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 計算問題を確実に定着させるために、反復して計算練習に取り組む時間を設けたり、検算を行わせたりする。 基礎基本の定着を図るため、反復して問題を解き、間違えたところの理解をさせ、確実に定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、見通しをもって自分の解決方法を考える。相手を意識させ、式、図、言葉を使って自分の考えが伝わるように分かりやすく表現すること意識させ、機会を設ける。 自力解決した方法をグループやペアなど形態を工夫し発表し合う場を多く設定し、多様な考えに触れさせることで自分とは異なる方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数学習の形を生かし、個々の習熟状況に対応した指導を行う。 デジタル教科書を活用することで、図形や線分図、グラフなどにおいて視覚的に関心・興味をもたせて取り組ませる。 自分の解法に固執せず、友達の考えから学んで、より良い方法を取り入れ、問題解決することができるような機会を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 計算問題を確実に定着させるために、反復して計算練習に取り組む時間を設けたり、検算を行わせたりする。 基礎基本の定着を図るため、反復して問題を解き、間違えたところの理解をさせ、確実に定着を図る。 既習事項の復習をする場面を設定し、基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、見通しをもって自分の解決方法を考える。相手を意識させ、式、図、言葉を使って自分の考えが伝わるように分かりやすく表現すること意識させ、機会を設ける。 自力解決した方法をグループやペアなど形態を工夫し発表し合う場を多く設定し多様な考えに触れさせることで自分とは異なる方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数学習の形を生かし、個々の習熟状況に対応した指導を行う。 デジタル教科書を活用することで、図形や線分図、グラフなどにおいて視覚的に関心・興味をもたせて取り組ませる。 自分の解法に固執せず、友達の考えから学んで、より良い方法を取り入れ、問題解決することができるような機会を設ける。